

## 11月にSGH大学訪問、現地フィールドワークを実施しました。

### SGH発展学習（国内大学との連携）

～共生社会、日本の国際貢献・国際理解を考える～

平成30年11月11日（日）京都大学、京都市内（広隆寺・清水寺・八坂神社・伏見稲荷大社等）

#### 《目的》

大学で講義を受け、現地フィールドワークを行うことで、課題研究テーマへの興味・関心を喚起し、課題研究テーマの理解を深める。

#### 《内容》

京都大学を訪問し、**大学院人間・環境学研究科**の小倉紀蔵教授の講義を受講しました。講義の中で、「**洞察**」の必要性など学問追究の姿勢についてお話をいただき、課題研究テーマが大いに深められました。その後、**日中韓の大学院生とのトークセッション・ランチョンセミナー**を行い、各国の歴史・文化などの話を中心に意見交換をしました。午後は班別フィールドワークを実施し、**朝鮮文化ゆかりの史跡**を訪問しました。



小倉氏の講義



日中韓大学院生との交流



京都市内フィールドワーク

#### [参加生徒の感想]

知識を得ることも大切だが、それ以上にその知識を自分のものにすることやそれを使って「洞察」することが大切だと学んだ。自分は今まで受動的に知識を受け入れていたけれど、それを批判的に考えてから自分の中に取り込んでいきたいと思った。

客観的知識から自らの意見を導く「洞察」すること、参考文献などの資料や情報を一度批判的に見て考えることが研究に必要なことに気づかされた。

日本では当たり前だと思っていたことが韓国では違っていたりと、国によって考え方が違うことを知った。そのため、グローバル化が進んでいる現代の社会で異なる国や文化の人たちと共に生きていくには、相手の国や文化について知り、理解を示すことが大事であると感じた。

メディアや政府などの報道を鵜呑みにして他国に対する偏見をもつのではなく、交流を大切にして自分自身で答えを探していくべきなのだと感じました。

日本と他国とでは全く違うところがたくさんあって面白かった。そのなかでも、同じ部分も少しあって他国出身の人と気持ちを共有できたことが嬉しかった。